

之ヲ莊園若シハ封戸ノ地ヨリ召シ、長上或ハ番上セシメテ使役スルヲ云フカ、因テ參考ノ爲ニ今昔物語ノ文ヲ引クコト左ノ如シ、

〔今昔物語 三十一〕藏大史生宗岡高助傳娘語第五

今昔大藏ノ最下ノ史生ニ、宗岡ノ高助ト云フ者有キ、略五間四面ノ寢殿ヲ造テ、其レニ高助ガ娘二人ヲ令住ム、略然テ此様ニ微妙ク傳ケレバ、上日ノ者、宮ノ侍可然キ諸司ノ尉ノ子ナド、聳ニ成ラムト云セケレドモ、高助目ザマシガリテ、文ヲダニ不取入サセザリケリ、

〔今昔物語 二十七〕美濃國紀遠助值女靈遂死語第二十一

今昔、長門ノ前司藤原ノ孝範ト云フ者有キ、其レガ下總ノ權ノ守ト云ヒシ時ニ、關白殿ニ候ヒシ者ニテ、美濃ノ國ニ有ル生津ノ御莊ト云フ所ヲ預カリテ知ケルニ、其御莊ニ紀ノ遠助ト云フ者有キ、人數有ケル中ニ、孝範此ノ遠助ヲ仕ヒ付テ、東三條殿ノ長宿直ニ召上タツケルガ、其宿直畢ニケレバ、暇取セテ返シ遣ケレバ、美濃へ下ケルニ、略下

〔五代帝王物語〕大殿○藤原道家は、帝の外祖たるうへ、攝政并征夷將軍の父なれば、世の従ひ恐事、吹風

の草木をなびかすよりも速なり、されば山の座主、三井寺の長吏、興福寺の別當、みな御子なり、仁和寺の御室は、代々王胤にてこそおはしませども、世を手に握り給うへは、北の政所の腹に福王御前として、愛子にて御座をば、御室の弟子に成て、師跡をうけつぎ給き、されば大殿の御葬禮の時も、殿たちよりも上にたちておはしましけるは、父の御素意のとほりなるべし、後は關白の准后助と申、法師の准三后の宣旨、是が始なるべし、

〔准后親王座次第〕一門跡准三宮初例

御室法助光明峯寺道家公

延慶六年七月廿七日蒙准三宮宣旨給初例、從是諸門跡連綿令補任事、